

機能		想定面積 (基本計画)	諸室名 (見直し検討)	見直しの考え方
機能部	鑑賞・発表	3,600㎡	舞台 (奈落)	当初は多様な演出に対応可能とするため必要に応じて大迫り・小迫りを備えるよう検討することとしていたが、長崎ブリックホールや他都市類似施設の実績に基づき大迫りが演出に使われる頻度が低く一部の限られた演目にのみ使われている実績から、今回大迫りは備えず小迫りや切穴(※)で対応することとし、その位置は舞台公演に影響のないよう慎重に検討する。 ※切穴…人物や道具等が奈落と舞台を出入りできるように舞台の床の一部を四角に切り抜いた穴
			ホワイエ	当初は観客の滞留空間であるホワイエとエントランスロビーをそれぞれ設けることとしていたが、改めて近年開館したホールで見られる事例にならないホワイエとエントランスロビーを一体利用することで各々の機能を確保しつつ効率的な運営が可能と考えられることから、来館者の動線や区分け等を考慮したホワイエとエントランスロビーの面積配分としたうえで一体利用する。
			技術諸室 (調光盤室)	当初は舞台の照明はハロゲンを想定しておりハロゲンでは光を調整するための調光盤を設置する諸室(調光盤室)が必要だが、照明技術の進歩によりLEDでも対応可能な状況になりつつある。したがって、今後の技術革新の状況を踏まえて省エネ効果の高いLED照明を積極的に導入する。また、その結果不要となる調光盤室は設置しないこととするが、演出上ハロゲンが必要な場合は対応できるように整備する。
	創造支援	500㎡	リハーサル室 (小劇場)	当初リハーサル室(小劇場)に必要と想定していた面積に対し、直近で他都市の類似施設を改めて確認した結果、当初想定していた面積より小さいホールの主舞台と同程度の面積でも小劇場として対応できていることから、小劇場としての利用にも十分配慮した形で整備する。
	交流促進	450㎡	エントランス ロビー	※ホワイエの内容再掲 当初は観客の滞留空間であるホワイエとエントランスロビーをそれぞれ設けることとしていたが、改めて近年開館したホールで見られる事例にならないホワイエとエントランスロビーを一体利用することで各々の機能を確保しつつ効率的な運営が可能と考えられることから、来館者の動線や区分け等を考慮したホワイエとエントランスロビーの面積配分としたうえで一体利用する。
共用部	その他	350㎡	事務室 (利用者 打合せ室)	当初は利用者打合せ用の個室を設けることとしていたが、通常の利用申込受付等はカウンターで対応可能であり、個室が必要な打合せは主催者控室等の諸室を臨機応変に活用することで対応可能であるため、利用者打合せ用の個室は設けずカウンター等により対応する。
	共用部	1,470～ 1,720㎡		諸室全体の面積に連動して増減するため、見直しに伴う再算定を行う。
	機械室	1,130～ 1,180㎡		諸室全体の面積に連動して増減するため、見直しに伴う再算定を行う。
	合計	7,500～ 7,800㎡		